



グループディスカッションで、参加者から課題解決や事業発展のアドバイスを受ける(株)かまいしDMCの河東英宜さん

東北リーダーズ・カンファレンス2018

4月20日・21日 [釜石市民ホールTETTOほか]

東北各地の地域リーダーや、日本を代表するビジネスパーソンら約150人が集い、新規ビジネスの成功事例を共有し、地方の新しいビジネスモデルについて議論しました。ラグビーワールドカップ2019に関するパネルディスカッションでは大会開催後をにらみ「2019年に釜石は世界の中心になる。その瞬間に何を『叫ぶ』のか今から準備を」とのアドバイスも。また、震災以降、東北地方で生まれた新しいブランドで特に優れたものを表彰する「第2回東の食のブランド・アワード」も開催され、当市の岩手缶詰(株)の「サヴァ缶」がデザイン賞を受賞しました。

ダンスで日本を元気に！夢の課外授業 中学生 Rising Sun Project 2018 開校式

4月24日 [釜石東中学校]

釜石東中生徒117人は、8月19日に開かれる釜石鵜住居復興スタジアム(仮称)オープニングイベントで、ダンス・ボーカルグループEXILEの復興支援ソング「Rising Sun」のダンスを披露します。このイベントで一緒に踊るEXILEのUSAさんとTETSUYAさんが、開校式にサプライズで駆けつけ直接指導。EXILEの2人は「みんな上達が早い。たくさんの笑顔と思い出をつくらう」と呼び掛けました。同中1年の三浦花音さんは「何も知らなかったので2人が来てびっくりした。みんな協力して一つの動きができるようにがんばる」と意気込みました。



指導に熱が入るUSAさん



ソリストに招いた釜石出身のピアニスト高橋伊さんと瓦田さんの思いが実現

Musica Promenade第14回演奏会

4月30日 [釜石市民ホールTETTO]

Musica Promenadeは、ドボルザークの『交響曲第9番ホ短調「新世界より」』や『花は咲く』『威風堂々』など繊細かつ迫力のある演奏で、約650人の観衆を魅了しました。2003年に釜石出身で指揮者の瓦田尚さんが立ち上げた同楽団は、各地での演奏会や映画出演など幅広い活動を展開。この日は、第6回ウィーンフィル・サントリー音楽復興祈念賞の表彰式も行われました。滝沢市から来場した福島園子さんと高橋佐千子さんは「ドボルザークを全部通して聞いたのは初めて。とても感動した」と話しました。

みんなでつくり防災市民憲章フォーラム ～災害から命を守る市民の誓い～

4月21日 [チームスマイル・釜石PIT]

教訓を語り継ぐことの大切さを共有し、憲章の在り方や役割などを考え、素案作りにつなげようとするフォーラムが開催されました(85人が参加)。

最初に、9会場のワークショップで出された、憲章に対する、さまざまなアイデアが報告されました(憲章の表現や伝え方など)。

その後のパネルディスカッションでは、釜石市防災市民憲章制定市民会議議長の丸木久忠さんを司会に、三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤聡さん、松原町自主防災会事務局長の柴田渥さん、釜石あの日あの時甚句つたえ隊の北村弘子さん、釜石高校3年の今出実利さんが日ごろの取り組みや伝えたいことを話し、議論を深めました。

歌のようにして伝えられたらと話した北村さんは、パネルディスカッションの後、相方の藤原マチ子さんと一緒に震災やその教訓を歌い継ぐ、甚句を披露しました。

最後には、市民会議の顧問で、市の防災・危機管理アドバイザーを務める齋藤徳美さん(岩手大学名誉教授)が「適切なところに適切に避難する」ことが最大の教訓。市民が参加して、みんなで防災市民憲章をつくる、このプロセスが大切」と積極的な市民の参加を呼び掛けました。

今後は、若い世代の意見をもっと取り入れるために小中学校などでも意見を聴く機会が設けられ、6月末までに素案を作成して、市長に提言する予定です。

WSの結果「伝わる言葉とは」
防災市民憲章の表現についての意見

- わかりやすい表現: 子どもや高齢者など誰が読んでもわかる表現
- 短く: 言い過ぎない。コンパクトに。文字数は少なく
- 地域の言葉: 例えば、てんでんこ
- ひらがな表記
- 形状: 箇条書き、標語、川柳(5・7・5)、歌にしやすい語調(文字数をそろえる、韻を踏む)
- 語尾: ～しましょう、～しろ(命令形)
- 学べるもの
- 津波以外の災害も含めて
- みんなにつながるもの

共有された防災市民憲章の表現



若い世代の代表として登壇した今出さんは「憲章は過去を振り返り、未来を切り開く良い機会。私も積極的に関わっていききたい」と話しました



釜石市民吹奏楽団との共演では、観客も一緒に歌い、会場が一つに

こころのビタミンプロジェクトin釜石

4月1日 [釜石市民ホールTETTO]

世界的指揮者・佐渡裕さん率いるスーパーキッズ・オーケストラ(※)が、心の復興を願い演奏を披露。釜石とは、宝来館のおかみさんが出した手紙がきっかけとなり、震災の年から支援・交流が続いています。クラシックや映画「ニュー・シネマ・パラダイス」のテーマ曲などを演奏。最後にはバッハの「シャコンヌ」で復興の祈りを込めました。佐渡さんは「震災から10年の年には大きな演奏会も開催したい」とこれからも釜石を応援したいと話しました。

※兵庫県立芸術文化センターの事業で、オーディションにより選ばれた小学生から高校生を、佐渡さんの指揮・指導によりさまざまな活動を展開しているオーケストラ

平田集会所および平田地区生活応援センター開所式

4月1日 [平田集会所]

東日本大震災で被災した平田地区生活応援センターを併設する、平田集会所の開所式が行われました。同集会所は鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ床面積329.57㎡。調理室や小会議室、大会議室などを備える他、1階の平田地区生活応援センターでは、本年4月から住民票や各種証明書の発行が可能となり、行政機能も充実しました。開所式では平田神楽と平田虎舞が披露され、集まった地元住民ら約80人が完成を喜びました。



地域コミュニティー活動の拠点として活用が期待されます

釜石市民ホールTETTOグランドオープン・フェスタ

4月8日 [釜石市民ホールTETTO]

4月より各施設の一般利用が可能となった釜石市民ホールのグランドオープンは、ホール前広場で力強い「桜舞太鼓」の演奏で幕を開けました。ホールBでは終日フリーマーケットが行われるなど、市民の手づくり感あるアットホームな催しに、終始和やかなムード。最後には、餅つきが行われ、来場者に振る舞われました。



ホールAでは地元の「DANCE CREW いがったんたら」をはじめ5団体がステージを盛り上げました。スタジオAは、地元の「ブラック★かまリンズ」など6団体と個人によるライブ会場になりました。ギャラリーは、工作や〇×クイズなど子どもの遊び空間に。キッチンカーも出店したホール前広場では、平田虎舞が披露されました

「きぼうの桜(宇宙桜)」植樹祭

4月14日 [橋野鉄鉱山内憩いの広場ほか]

震災の津波被災地で桜の植樹活動を展開する(一財)ワンアースと市は「きぼうの桜(宇宙桜)」植樹祭を開き、栗林小学校の児童や地域住民ら約80人が参加しました。「きぼうの桜」は、全国各地から選出された14種類の名桜の種を、国際宇宙ステーションで8カ月半保管し、地上に持ち帰った後、発芽した希少な桜です。今回、植樹された苗木は、福島県三春町の三春滝桜。新たな復興のシンボルの誕生に、同小6年の佐々木健心さんは「植樹に貢献できてうれしい。いろいろな所から来る人たちに囲まれながらきれいに育てほしい」と笑顔で話しました。



「きぼうの桜」と彫られたラピスラズリ(瑠璃)を苗木の根元に埋めました

第6回戦争体験者のお話を聞く会

4月20日 [働く婦人の家]

「『翳った太陽』を歌う会」は、戦争の体験を次の世代へ語り継いでいくために、太平洋戦争で2度の艦砲射撃を経験した佐野健司さんの戦争体験を聞く会を開きました。歌う会は、平成17年に活動を始め、艦砲射撃で教員を亡くした教員の絵手紙などから作詞された合唱組曲「翳った太陽」を、市内の学校コンサートで歌い継いできました。「翳った太陽」の作曲をした最知節子さんは「実際に体験した方からお話を聞けるのは大変貴重なこと。今後も歌を通して、戦争の悲惨さを次の世代に伝えていければ」と話しました。



戦争時の写真の説明をする佐野さん